

鎌倉楽しむ会

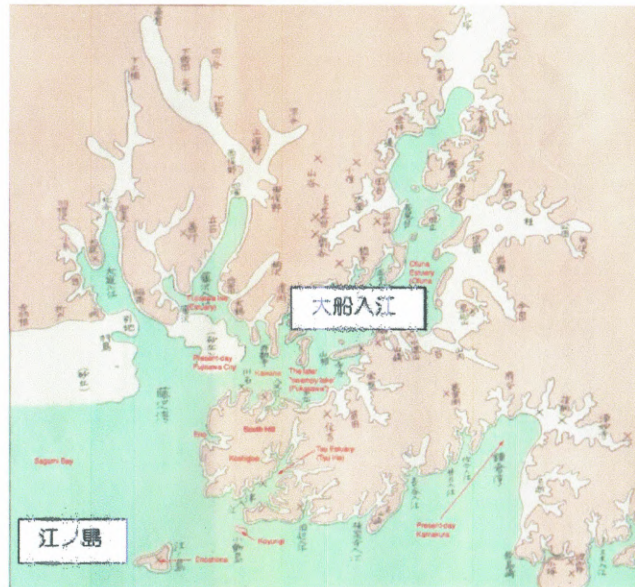
真言密教の定泉寺から
玉縄北条の史跡探訪
田谷洞窟～龍宝寺へ



大船観音

(スタート) JR大船駅西口

平成28年11月16日



- 縄文時代前期の鎌倉の古地図 約5～6千年前の鎌倉 (出典・鎌倉教育委員会「私たちの鎌倉」)

大船について

- 縄文時代前期ころまでは海進期で、海岸線は、今よりかなり陸地の奥深くまで入り込んでいたとみられる。鎌倉の湾も現在の鶴岡八幡宮の前や二階堂の荏柄天神社の下辺りまでおよんでいたとされる。また、北部の大船の入江は、藤沢から横浜市戸塚、栄区の奥深くまで入り込んでいた。
- 縄文時代後期ころ(紀元前2500年頃)から再び気候は寒冷化し、海も後退して陸地が広がった。
- 弥生時代(紀元前300年頃)の海岸線は、さらに後退し現在の位置に近いところまで下がったと思われる。

- 大船の地は、古くは「粟船」「青船」と記されている。大船の地名は、辺りが入り江であったころ、粟を積んだ船が繋がれていたことによると伝えられる。
- また、大船5丁目の「常楽寺」(北条三代執権・泰時公の墓所、大姫の許婚・木曾義仲の嫡子義高の墓所がある)の山号が「粟船山」(ぞくせんざん)で、寺の裏山が「あわふねやま」と呼ばれることから転じた。あるいは丘の形が船のような形をしていたから、などの説がある。

大船観音寺



- 大船観音の建立が着手されたのは昭和4年のこと。だが、日中戦争や第二次世界大戦のため、未完成のまま二十数年が経過した。
- 昭和29年(1954)、当時の雪洞宗管長高階隆仙禅師が中心となり財界人らの協力のもと大船観音協会が設立され、昭和35年(1960)

に完成した。高さは約二十五尺、幅約十九尺。完成後は昭和56年(1981)、大船観音協会は解散し、現在は大本山総持寺の末寺となっている。

- 山号は仏海山。曹洞宗。小高い山の上に建立された観音像の前庭からは大船の街並みが一望できる。境内には四季折々にユキヤナギ、オオムラサキツツジ、さくら、コスモスなどが咲き、目を楽しませる。



- 洞窟は一般には「田谷の洞窟」となっているが「瑜伽洞」という人工洞窟です。この洞の全長は、およそ1キロメートルほどと推定されている。内部の気温は

田谷の洞窟・定泉寺

季節を問わず16℃前後となっている。この洞窟は鎌倉時代に創られ始め、真言密教の修行として大勢の僧侶が掘り進んでいったものです。明治の廃仏毀釈で一時閉鎖され、昭和2年になり一般公開され見学できるようになったということです。今でも修行僧が使うことがあるとか…。

- 定泉寺は天文元年(1532)に鶴岡八幡宮二十五坊の隆継阿闍梨により建立されたと伝わっている。現在は真言宗大覚寺派に属している。



- 洞窟に入る時に400円を払いローソクが手渡され入口で灯して洞内に入ります。中には様々な仏像の彫刻が見られます。彫刻されたのは鎌倉時代～江戸時代と伝えられています。

龍寶寺



● 玉縄北条氏の菩提寺として栄えた。寺伝によれば、玉縄城主北条綱成が文龜三年(1503)に建立した瑞光院がこの寺の始まり。天正三年(1575)、玉縄四代城主北条氏勝によって現在地に移された。創建当時は広大な寺領を有し

たが、小田原北条氏の滅亡とともに衰退。豊臣の軍勢と対峙して玉縄城にこもった氏勝も降伏、開城した。氏勝はのちに徳川家康に仕えることになる。本堂には、本尊の宝冠釈迦如来と脇侍の文殊菩薩・普賢菩薩が祀られ、歴代玉縄城主や源実朝の位牌が安置されている。境内には江戸時代の儒学者「新井白石」の碑、国指定重要文化財の旧石井家の住居があり、住居内に収納されていた民俗資料は、玉縄民族資料館に展示されている。

小坂家の長屋門



● 戦国時代には「玉縄番匠」を務めた家柄で、玉縄城のための建築業者で、大工などの職人が集められていた。北条氏綱が行った鶴岡八幡宮の修繕にも中心の役割であったということです。江戸時代には鎌倉の植木村の名主を務めていたという。

玉縄城址



● 三浦半島の基部あたる鎌倉付近は戦国時代、三浦半島を拠点とし、かつては鎌倉幕府で重責を担った三浦一族の末裔の三浦道寸(義尚)と相模に勢力を得た北条早雲率いる後北条氏との対決の舞台となった。早

雲は永正九年(1512)に、この玉縄城を築いた。
● 現在、清泉女学院中学高校が建ち、城跡の中心区域は失われている。
● 玉縄城は尾根を活用して多くの曲輪、土塁、堀を造成して中央に「本丸」を設けていた。構造は複雑で、きわめて堅固な城郭だった。後北条氏にとっては相模最大の拠点でもあり、天正十八年(1590)に豊臣秀吉に無血開城されるまで落城したことはなかった。

貞宗寺



● 玉縄山珠光院貞宗寺は浄土宗。門を入ると山道が続き、奥正面に本堂がある。その大棟に三葉葵が入っているのは、この寺が徳川家ゆかりの寺であることを示す。貞宗寺

の由来となった貞宗院は、二代將軍秀忠を産んだ家康の側室お愛の局(宝台院)の生母、秀忠の祖母である。江戸城大奥でお年寄役をつとめた貞宗院は、晩年この地に屋敷を構え隠居したという。関東大震災にも耐えた本堂には、本尊阿彌陀三尊像と厨子に入った貞宗院像が祀られている。徳川幕府歴代將軍の位牌も置かれている。

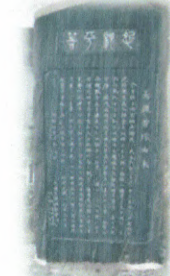
フラワーセンター大船植物園



● 正式名称は「神奈川県立フラワーセンター大船植物園」です。昭和42年(1967)に神奈川県農業試験場の跡地に開設された植物園で、総面積63,900平方メートル(約2万坪)の広さがあつる。シャクヤク、ハナショウブ、玉縄桜

を中心に国内外の鑑賞植物が約5700種、栽培、展示され、四季にわたって楽しめる。開催される菊花展は県最大規模。県下の菊愛好家が育てた菊を約1000点もの様々な菊を展示。見られる菊の種類は切り花が300点、鉢物・けんがいなどが700点。様々な菊が出展される。同時期にはバラ園で秋バラが見頃です。

玉縄首塚



● 文永6年(1526)安房の里見実房が鎌倉に攻め込んだ。玉縄城の北条氏時が迎え撃ち、戸部川(柏尾

川)付近で激しい戦闘となった。両軍とも戦死者をだした。氏時方では30数名が首を取られた。合戦後、氏時は、里見方に申し入れて、互いに打ち取った首を交換し、この地に葬ったのだと伝えられる。また、この戦いで鶴岡八幡宮も炎上した。鎌倉五山の太平寺の青岳尼が安房に渡ったため廃寺となったと伝えられている。

神奈川県鎌倉市岡本1丁目 付近



1:12,500 相当

地図上の1センチは約125メートル
印刷中心は 東経 139度31分39秒 北緯 35度21分22秒